

日本中医鍼灸研究会

《脳と中医学》

～脳血管障害の治療法～

石塚 僚司

## ◎脳と五臓の関係

中医学では、脳を「髓海」と呼び、全身の精や血が集まる場所として捉えていました。脳の機能は、五臓六腑、特に腎、心、肝の影響を強く受けると考えられていました。

- 腎: 脳の発達と機能に深く関わり、腎精の不足は記憶力低下や認知機能障害につながると考えられていました。
- 心: 精神活動の根源であり、心と脳のバランスが精神の安定に影響を与えると考えられていました。
- 肝: 脳への血流を司り、肝血の不足はめまいや頭痛を引き起こすと考えられていました。

## ◎中風とは？

中風(ちゅうふう)は、『黄帝内経』に記載され、脳卒中や脳血管障害に類する急激な発症の病状を指します。この病気が「中風」と呼ばれるのは、「風(ふう)」が自然界で速く、変化しやすい性質を持つように、病気の発症も急激で多様な症状を呈し、刻々と状態が変化することからきていて「中」は中る(あたる)の意味。『黄帝内経 素問』の「風論」にも、「風善行数変」(風は善く行(めぐ)りて数々(しばしば)変ず)という表現があり、「風邪(ふうじゃ)」が体に侵入することによって中風が引き起こされるという認識が古代から示されていました。

## ◎中風七穴とは？

1説:百会・曲池・肩井・足三里・曲髻・風市・懸鐘

2説:百会・曲池・肩井・足三里・大椎・風池・間使

「中風七穴」は、「中風」の治療に使われた特定の7つの経穴で、中風の症状を和らげ、回復を助けるために活用されました。この概念は紀元前に考えられたと言われ、広く利用されるようになったとされる。

中風七穴は時代や地域、施術者の見解によって異なる経穴の組み合わせが提案されることがあり、一説と二説など、複数の経穴選定のバリエーションが存在します。これは、時代ごとに異なる臨床経験や理論的アプローチが加えられ、治療のために選定される経穴が少しずつ異なっていたためだと考えられます

# 醒腦開竅法

## ◎醒腦開竅法とは

1972年 天津中医薬大学の石学敏教授が開始した、中風の病因病機に関する緻密な研究と、現代科学の神経系統における解剖学研究により「醒腦開竅法」が創設された。

## ◎中風の病因病機

### 1 五志過極

五志過極とは、怒・喜・思・憂・怖、この五つの感情が極端に偏り、バランスを崩してしまう状態を指します。それぞれの感情が過剰になると、特定の臓器に負担をかけ、様々な病気を引き起こす可能性があると言われています。

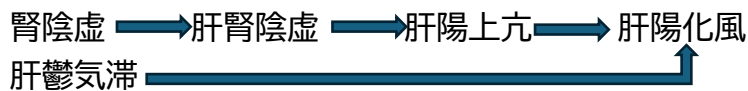


### 2 陰虚陽亢

腎陰虚により、<sup>すいふかんもく</sup>水不涵木となり肝腎陰虚を生じる。

この状態が長く続くと、肝の陽気を抑えられず肝陽上亢となり、陽亢のため風を生じる。それが清竅(耳、鼻、口、目)に影響する。

また肝鬱気滞により条達を妨げ、気血が上衝し、風陽が竅に乗り、暴厥する。



### 3 飲食不節、労倦内傷

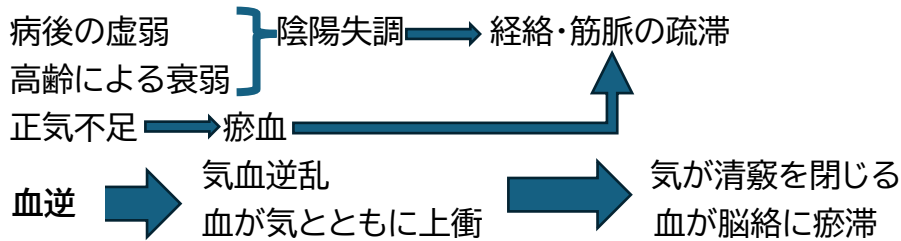
油ものや美味な食事の過剰摂取や、木剋脾土により脾を傷めると、脾の運化機能が悪くなり、湿が集まり痰を形成する。この痰が瘀滞・熱化し、絡を阻滞する



### 4 正気不足

病後の虚弱体質・高齢による身体の虚弱という虚に乗じて風邪が身体に入り脳に行く経脈や筋脈に影響する。また種々の原因により血逆が起こり、血が正常に運行できなくなり血が気と共に

に昇り脳に影響する



病因	説明	病機
風邪	外邪が体に侵入し、経絡を阻害して血液の流れを妨げる	気血が滞り、四肢の麻痺や口舌の偏りが生じる
肝陽上亢	肝の火が過剰に上昇し、肝風が内生して脳や経絡に影響を与える	気血が逆流し、めまいや意識障害が発生
痰湿	痰(過剰な体液)が体内に蓄積し、血管や経絡を詰まらせる	経絡が詰まり、半身不随や麻痺が引き起こされる
気虚	気の不足により臓腑が正常に働かず、血の流れが滞る	気が虚弱なために脳や四肢に十分な血液が供給されず、麻痺や意識障害が発生
血瘀	血行が悪くなり、瘀血(血液の滞り)が生じて経絡が詰まる	血行不良により脳や四肢の血流が悪くなり、片麻痺や痛みが生じる
陰虚火旺	陰(身体の潤い)が不足し、火が旺盛となり、内熱が発生しやすくなる	内熱により血液が逆流し、血管が詰まり意識障害や半身不随が発生
生活習慣(過労、ストレス、飲食の不節)	過労や不規則な生活習慣、脂っこい飲食物などが肝腎を傷め、血行を阻害	脳への血流が悪くなり、経絡の流れが乱れて四肢の麻痺や運動障害が生じる
老化による衰え	加齢により腎気が衰え、気血の生成が減少し、身体の修復力が低下	血行不良や経絡の弱体化により、脳卒中リスクが高まり、体の各部分が麻痺しやすくなる

## ◎中風の分類

### 1中経絡(軽症)

意識がある。経絡や気血の疎滞によるもの。

症状: 片麻痺、感覚麻痺、口や目の歪み、喋りにくさ、ゆっくりした発語、口や嚥下の麻痺など。

原因: 経絡に風邪が入り、気血の運行が妨げられる。

### 2中臓腑(重症)

意識障害があり重症。さらに「閉証」と「脱証」に分類される。

#### ① 閉証

・陽閉: 顔面紅潮、体の熱感、息が荒く口臭がある、落ち着かない煩熱状態。

・陰閉: 顔が白く唇が暗い、静かに横になる、四肢が冷たく痰が多い。

## ② 脱証

症状: 意識障害、目を閉じ口を開く、手に力がなくいびき、失禁。

原因: 精の衰弱、陰陽離決(陰陽の調和が崩れる)。

その他の症状: 呼吸の衰弱、多汗、失禁(大便・小便)、四肢の冷え。

亡陽: 陽気が不足する状態。

極めて重篤な症状: 両頬の紅潮後に顔が蒼白になる。陰のエネルギー(血・水・精)が枯渇した状態

## ◎まとめ

中風(脳卒中)における根本的な病理メカニズムは、「元神の府」(脳)の損傷が原因です。この損傷により、脳内の「竅」(意識を司る穴)が閉じてしまうことで、意識が遠のき、身体の機能に障害が生じるとされています。これが「竅閉神匿(竅が閉じ神が隠れる)」と表現され、中風患者の主要な症状である意識障害や四肢の運動障害を引き起こします。

この状態は脳の障害にとどまらず、五臓の生理機能にも影響を与え、体全体の気血のバランスが崩れます。その結果、以下の症状が現れやすくなります:

- ・意識障害: 神が隠れる状態になり、意識が混濁しやすい
- ・運動障害: 四肢に麻痺が生じるため、自由に動かすことが難しくなる
- ・言語障害: 脳の機能低下により、言葉が出にくくなる
- ・気血逆乱症状: 動悸や咳、嘔血、便血など

このような症状は、脳の損傷による「竅閉神匿」というメカニズムが根本にあり、体全体の生理機能に大きな影響を与えることが分かります。

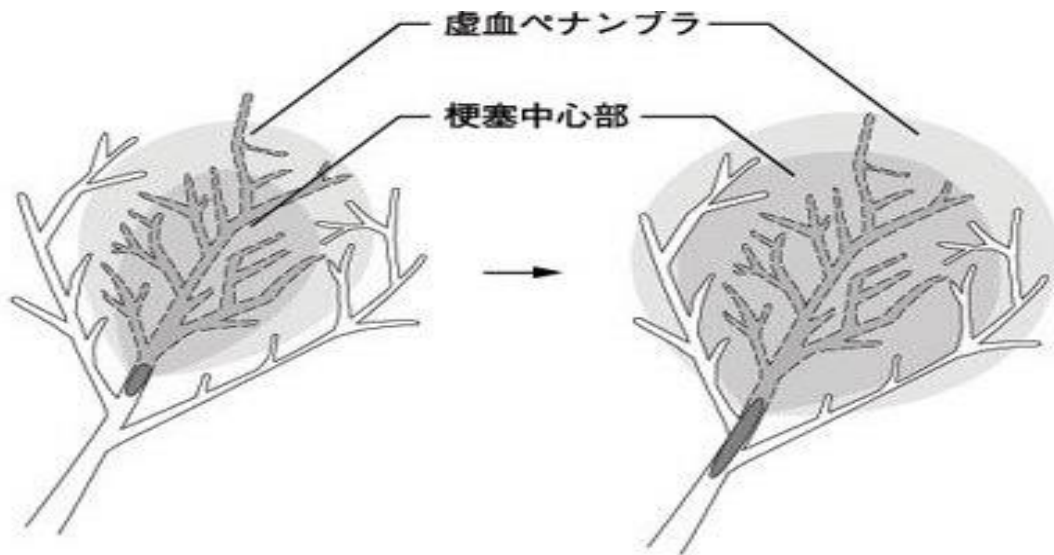
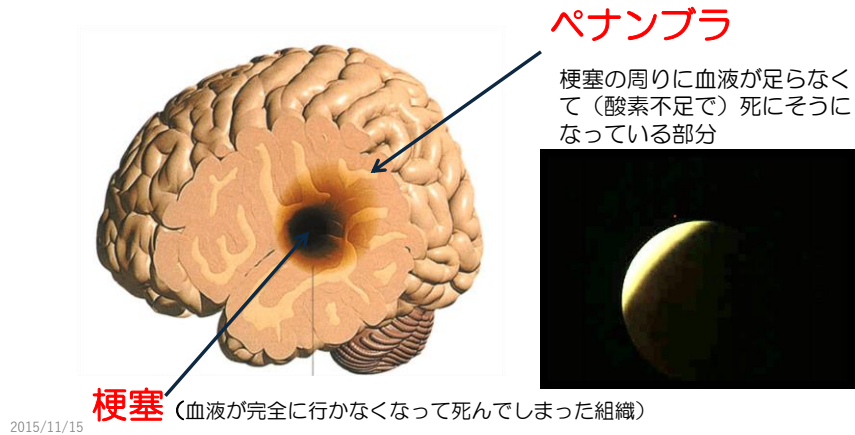
## ◎ペナンブラ

ペナンブラ(penumbra)とは、脳梗塞の急性期に脳血流が減少した周辺部で、側副血行によってまだ生き残っている領域を指します。脳血流が減少しても、隣の血管と重なっている部分などによってわずかに血流が確保されているため、神経脱落症状は呈していますが、適切な治療によって症状が回復する可能性があります。

脳梗塞の治療では、1分でも早く血管を再開通させることが後遺症を少なくするために最も重要です。血流が途絶して3時間以内に再開通が得られれば、ペナンブラ領域が壊死せずに済むことで症状が劇的に改善することがあります。発症から24時間以内であれば再開通治療を行うことで脳梗塞の拡大を食い止めることができ、後遺症が軽くなったという報告もあります。

一方、ペナンプラ領域は梗塞化して神経後遺症を生ずる可能性もあります

## ペナンプラ 半影帯



### ◎醒脳開竅法の治則と配穴

醒脳開竅法は治療におけるシステム化が図られたことにより、多くの鍼灸師が再現性をもって実践できるものとなっている。中医鍼灸においては正確な証の決定が不可欠であるが、さらに治療効果を決定づける重要な要素として手技の問題がある。

この手技の要素が多く関わるのが醒脳開竅法の特徴の一つである。

### ◎手技量学を構成する要素

- ①刺針の方向    ②刺針の深度    ③手技の速度    ④手技の時間

醒腦開竅法は中風の病因病機の考えに基づき「開竅啓閉」「滋補肝腎」を主とし、疏通経絡を従とする治療法である。

「開竅啓閉」

まずは、脳竅を開くこと元神の府の改善（脳の生理機能の改善）を図る。

「滋補肝腎」

病機説より、肝腎陰虚に対して「滋補肝腎」を行う。

補助として四肢の経絡の経気の疏通をする疏通経絡である。

## ◎主穴

主穴	内関・人中・三陰交
副穴	極泉・尺沢・委中

### ①内関…手厥陰心包経・絡穴・陰維脈の宗穴

八脈交会穴の陰維脈

陰維脈は全身の陰経に連携させる。

臓腑に作用→裏証

心包経の絡穴

絡穴…三焦経

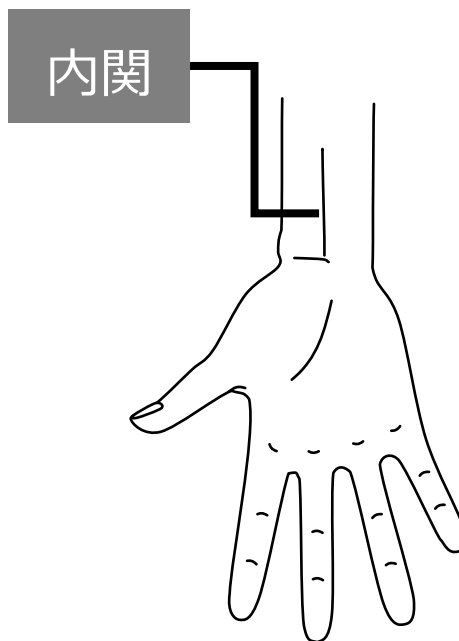
養心安神、疏通気血に作用

操作

直針で1～1.5寸刺入

捻転法・提挿法の結合瀉法(1分間)

鍼感を指の末端に放散



### ②人中…督脈・手足陽明の交会穴

督脈

脳に連絡し、脊髓・腎とも密接な関係。

全身の陽気を統括し、手足の三陽経、陽維脈と何度も交会し「陽脈の海」とも呼ばれる。

手足陽明の交会穴

中風治療の多くは「治痿独取陽明」の理論に基づき、

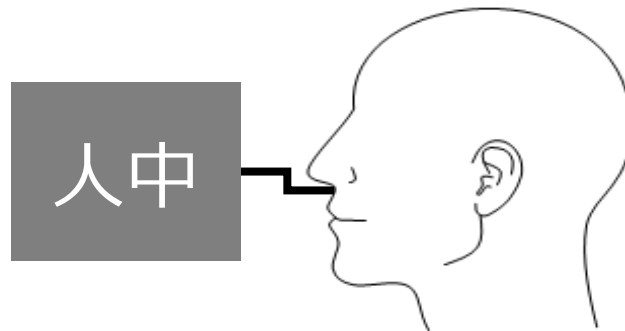
痿病を治療するときは、ただ陽明をとる、ともされる。

また、陽明は五臓六腑の海とも呼ばれる。

開竅啓閉、健腦寧心に作用(内関との併用により、醒腦、調神、開竅)

## 操作

人中溝の上 1/3 に取穴し、針尖を鼻中隔下に向けて 3~5 分刺入  
強い雀啄法(眼球に涙が充満するまで)



### ③三陰交・・・足太陰脾経・足三陰経の交会穴

足三陰の交会穴

足三陰経が交会する場所であり、  
中風の病因病機に基づく肝・脾・腎と関与する。

滋補肝腎・益髓充脳に作用

操作

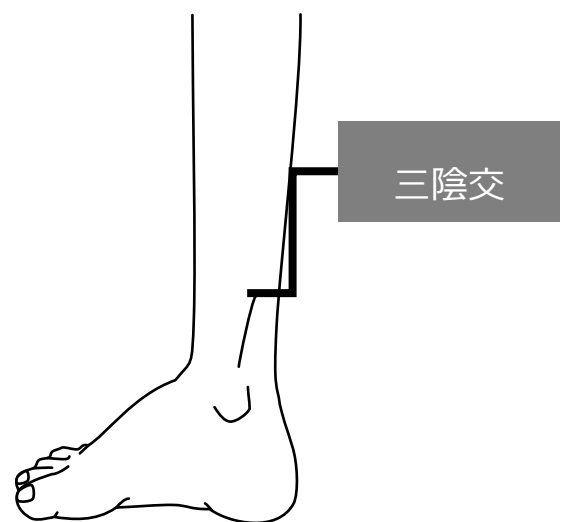
内果の上 3 寸に取穴

脛骨後縁から 1~1.5 寸斜刺する

鍼体は皮膚と 45 度角

提挿補法

患者の足を 3 回躍動させる





## 『MG式「醒脳開竅法」得気スコア』

部位／スコア	A	B	C	D	E
〔人中〕	涙が出る	目が潤む	顔をしかめる 嫌がる	微弱な反応	無反応
手関節 〔内関〕	顕著な跳動あり	跳動有り	屈曲を認める	筋収縮を認める	無反応
肘関節 〔尺沢〕	顕著な跳動あり	跳動有り	屈曲を認める	筋収縮を認める	無反応
肩関節 〔極泉〕	顕著な跳動あり	跳動有り	屈曲を認める	筋収縮を認める	無反応
足関節 〔三陰交〕	顕著な跳動あり	跳動有り 補助穴での跳動含む	屈曲を認める	筋収縮を認める	無反応
膝関節 〔委中〕	顕著な跳動あり	跳動有り	屈曲を認める	筋収縮を認める	無反応

(C)2006LIFENCE lab , TCM section, SaitouTakahii  
Supervisor: Uematsu Hideaki / Makita general hospital TCM clir